

# 家 庭 科

## 1 教科の目標

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 家族や家庭、衣食住、消費や環境などについて、日常生活に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。

(2) 日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなど、課題を解決する力を養う。

(3) 家庭生活を大切にする心情を育み、家族や地域の人々との関わりを考え、家族の一員として、生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を養う。

○生活の営みに係る見方・考え方を働かせる

家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係る生活事象を、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等の視点で捉え、生涯にわたって、自立し共に生きる生活を創造できるよう、よりよい生活を営むために工夫することを示している。

○衣食住などに関する実践的・体験的な活動

調理、製作等の実習や観察、調査、実験などの実践的・体験的な活動を通して理解する学習を展開する。基礎的・基本的な知識及び技能を確実に身に付け、活用して、身近な生活の課題を解決したり、家庭や地域で実践したりできるようにすることを目指す。

○生活をよりよくしようと工夫する資質・能力

この資質・能力とは、「何ができるようになるか」であり、生涯にわたって健康で豊かな生活を送るための自立の基礎として必要なものについて示したものである。

(1)の目標は、家族や家庭、衣食住、消費や環境などに関する内容を取り上げ、日常生活に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付け、生活における自立の基礎を培うことについて示している。

○日常生活に必要な基礎的な理解を図る

児童が既存の知識や生活経験と結び付け、学習内容の本質を深く理解するための概念として習得し、家庭や地域などにおける様々な場面で活用されることを意図している。

○それらに係る技能を身に付ける

自分の経験や他の技能と関連付け、変化する状況や課題に応じて主体的に活用できる技能として習熟・定着することを意図している。実践的・体験的な活動を重視した学習を通して、児童一人一人のよさや個性を生かしながら身に付けるようにすることが大切である。

(2)の目標は、習得した「知識及び技能」を活用し、「思考力、判断力、表現力等」を育成することにより、課題を解決する力を養うことを明確にしたものである。

○日常生活の中から問題を見いだして課題を設定する

既習の知識及び技能や生活経験を基に生活を見つめることを通して、日常生活の中から問題を見だし、解決すべき課題を設定する力を育成することについて示している。

○様々な解決方法を考える

課題解決見通しをもち、計画を立てる際、生活課題について自分の生活経験と関連付け、様々な解決方法を考える力を育成することについて示している。

○実践を評価・改善し、考えたことを表現する

調理や製作等の実習、調査、交流活動等を通して、課題の解決に向けて実践した結果を振り返り、考えたことを発表し合い、他者の意見を踏まえて改善方法を考えるなど、実践活動を評価・改善する力を育成する。また、2学年を見通して、学習過程を工夫した題材を計画的に配列し、課題を解決する力を養うことが大切である。

(3)の目標は、(1)及び(2)で身に付けた資質・能力を活用し、家庭生活を大切にする心情を育むとともに、家族や地域の人々と関わり、家庭生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を養うことを明確にしたものである。

○家庭生活を大切にする心情を育む

家庭生活への関心を高め、衣食住を中心とした生活の営みを大切にしようとする意欲や態度を育むことについて示している。

○家族や地域の人々との関わりを考える

自分の生活は家族との協力や、地域の人々との関わりの中で成り立つ。家庭生活は自分と家族との関係だけではなく、地域の人々と関わることでより豊かになることを理解した上で、よりよい生活を工夫して積極的に取り組むことができるようにすることについて述べている。

○家族の一員として

家庭生活を営む上で大切な構成員の一人という自覚をもち、進んで協力しようとする主体的な態度について述べたものである。

○生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度

日常の様々な問題を、協力、健康・快適・安全、生活文化の大切さへの気付き、持続可能な社会の構築等の視点で捉え、一連の学習過程を通して身に付けた力を、家庭生活をよりよくするために生かして実践しようとする態度について示したものである。

## 2 指導要領改訂の趣旨及び要点

### (1) 改訂の趣旨

① 前回改訂の学習指導要領の成果と課題を踏まえた目標の在り方

○生活に役立つ、将来生きていく上で重要であるなど、学習の関心や有用感が高い。

○社会の変化により、家族への関心が低く、地域、家庭実践、社会参画は十分ではない。

○今後の社会の急激な変化に主体的に対応することが求められている。

② 具体的な改善事項

ア 指導内容の示し方の改善

○小・中・高等学校の内容の系統性の明確化

○空間軸と時間軸という二つの視点からの学校段階に応じた学習対象の明確化

○学習過程を踏まえた改善

イ 教育内容の見直し

○人とよりよく関わる力を育成するための学習活動、食育を一層推進するための食事の役割や栄養・調理に関する学習活動の充実

○消費生活や環境に配慮した生活の仕方に関する内容の充実

○衣食住の生活において、日本の生活文化の大切さに気付く学習活動の充実

### (2) 改訂の要点

① 目標の改善

育成を目指す資質・能力を三つの柱により明確にし、質の高い深い学びを実現するために、家庭科の特質に応じた物事を捉える視点や考え方（見方・考え方）を働かせることについて示した。

② 内容の改善

ア 内容構成の改善

小学校中学校ともに、「A家族・家庭生活」「B衣食住の生活」「C消費生活・環境」の三つの内容となった。

イ 履修についての改善

「A家族・家庭生活」の(1)アをガイダンスとして5年生の最初に履修させるとともに、「A家族・家庭生活」(4)課題と実践では、2学年間で一つ又は二つの課題を設定して履修させる。

ウ 社会の変化への対応

家族・家庭生活、食育の推進、日本の生活文化、自立した消費者の育成に関する内容の充実

エ 基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着を図るための内容の充実

オ 知識及び技能を実生活で活用するための内容の充実

カ 「生活の営みに係る見方・考え方」と関連を図るための内容の充実